

令和4年度 第10回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 令和4年4月26日（火曜日） 午後3時30分から午後5時00分まで

開催場所 松本市役所東庁舎3階 議員協議会室

出席者（敬称略）

委員 降旗都子（委員長）、丸山宗志（副委員長）、内山博行、林下すず子、鳥羽弘幸、
山下京子、倉澤 聡、赤羽 勝、相原功子、小林 修、松山紘子
（欠席：倉田美智子、臼井和夫、窪田隆彦、久保 愛、濱由佳子）

事務局 地域づくり課

住民自治局長 村山 修、地域づくり課長 廣田圭男
地域づくり担当係長 床尾拓哉、主事 太田晴香

1 開会

（降旗委員長）

2 あいさつ

（降旗委員長）

（住民自治局長 村山）

3 会議事項

(1) 市長への提言書提出について

ア 報告

（降旗委員長）

※ 令和3年12月9日に行った市長への提言書提出について報告

<質問等>

・ なし

(2) 第3次地域づくり実行計画の策定について

（事務局）

※ 資料に基づき説明

<質問等>

・ なし

(3) 地域づくりセンター強化モデル事業について

（事務局）

※ 資料に基づき説明

<質問等>

（内山委員）

・ モデル地区になっていない27地区をどうするのかに触れていない。

- ・ センターの強化も大切だが、まずセンター長の教育について考えるべき。地区ごとに事情が異なるため、まず地域のことを知ってほしい。
 - ・ 「強化」という言葉が先に出ると、センターが問題解決をするかのように受け止められてしまう。センターは推進役ではなくつなぎ役である。
 - ・ 今年度もいくつかの地区でセンター長の異動があった。異動させるなどは言わないが、センター長が地区に腰を落ち着けていられるようにしてほしい。
- (小林委員)
- ・ 形骸化した事業が2年3年続いて終了、といったことにならないようにしてほしい。
- (林下委員)
- ・ 松本市では様々な活動が行われているが、実際に活動してくれる人は少ない印象
 - ・ 地域での活動が学校での評価に繋がる仕組みがあれば、もっと子どもたちを巻き込んだ活動ができるのではないか。

(4) 第5期委員会の振り返り及び第6期委員会への申送りについて

倉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話だけでは深掘りが難しいこともある。ケーススタディーや現場に出てみる機会があれば面白い。テーマをこま目に決めていくというのも一つの手ではないか。 ・ 遊び心があるKPIなどを考えていけるとよい。議論の種にもなるし、地域の実情を面白く知ることができる。
鳥羽委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくりとはどういうものか、地域にどんな課題があるのかを知り、繋がることで自分事として取組めるのではないか。第6期で引き続き検討してほしい。
林下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは自分の地域をもっと知りたい。今何が求められているのかも含め、自分の足元をもう一度確認していきたい。
松山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と関わりの少ない大多数の人をどうやって巻き込むかが一番の課題 ・ 他人任せではなく、自分のできる範囲で参画することが大切。皆がお客さんではなく、少しずつ協力し合ってできるような場が地域で回っていくとよい。
山下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会や隣組の活動に参加しない人が増え、地域の繋がりを保つのが難しくなっている。コロナ禍で活動を全て中止した地区もある。 ・ これからどんなことができるかを見極め、活動を増やしていくことが大事
赤羽委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、地域づくりセンターの機能強化を進めるにあたり、どのような形で地域との連携を図っていくか。 ・ 第6期は、具体的な活動内容を検討する段階ではないか。地域の様々な活動を実際に見て、肌感覚で感じる必要がある
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各回のワールドカフェは、深い原因まで究明する前に終わってしまい、少し不完全だった。次回は徹底してやってほしい。
相原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の住んでいる地区は小学校が二つに分かれており、中々子どもの顔が見えてこない。親子で集まる場を設け、子どもたちを見守っていききたい。

内山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画に書かれていることを誰が進めるのか、深く検討してほしい。人の育成の問題であり、推進していく人は地域で育てるしかない。 ・ 地域づくりセンター長、地区生活支援員等、役割をもう少し整理する必要がある。
丸山副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの地域だけを見続けるのではなく、他の地域と比較しながら考えていくことが自分の地域を知る一番の近道ではないか。 ・ 若者の参加は重要だが、若者は若者で顔の見える付き合い以外の付き合いが増え、疲弊している。地域に関わるメリットを知ってもらえるような地域づくりの展開が必要
降旗委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ センター長、公民館長、公民館主事、地区生活支援員、福祉ひろばコーディネーターが一つのチームとして動いていくことが重要 ・ 第6期は、提言書を基に作られた実行計画が生かされるような議論を期待したい。

(5) その他

(事務局)

- ・ 第6期地域づくり市民委員会の改選について

(以上)